



第二次佐久市 スポーツ推進計画（素案）



令和4年3月
佐久市教育委員会

目次

第1章 計画の策定に当たって	1
1 計画策定の趣旨	1
2 計画の位置付け	1
3 計画の期間	2
4 本計画におけるスポーツの定義	2
5 SDGs（持続的な開発目標）への貢献	3
第2章 スポーツを取り巻く現状と課題	4
1 我が国のスポーツを取り巻く情勢	4
2 佐久市の現状	5
（1）佐久市の人口	5
（2）体育施設の現況及びその利用状況	6
（3）スポーツ教室、スポーツ大会・イベントの開催状況	9
（4）地域スポーツ団体などの状況	10
（5）子どもの体力・運動能力の現状	11
（6）市民のスポーツ活動の現状	12
3 佐久市の課題	22
第3章 計画の基本的な考え方	25
1 基本理念	25
2 目指す市民像	25
3 数値目標	25
4 基本目標と成果指標	26
5 計画の体系図	28
第4章 具体的な施策の展開	29
基本目標1 健康で活力あるスポーツライフの推進	29
1 子どものスポーツ推進	29
（1）子どもの運動能力の向上	29
（2）子どもの多様なスポーツ機会の充実	29
（3）子どもがスポーツに親しむ環境の充実	29
2 働き盛り、子育て世代のスポーツ推進	30
（1）ライフステージに応じたスポーツ機会の充実	30
（2）スポーツによる健康の保持増進	30
3 高齢者のスポーツ推進	31
（1）スポーツを通じた健康づくり	31
（2）生涯スポーツの推進	31
4 障がい者のスポーツ推進	32
（1）障がい者がスポーツに親しむ機会の充実	32
（2）障がい者スポーツの普及促進	32

基本目標2 スポーツを安全で気軽に楽しめる施設環境の整備	33
1 計画的な施設整備の推進	33
(1) 施設の適正な整備	33
(2) 身近な施設・場所でのスポーツの充実	33
(3) 安心・安全に利用できる環境づくり	33
2 施設の管理運営に関する民間団体との連携・協働	34
(1) 効率かつ効果的な施設の管理運営	34
(2) 施設情報の発信	34
(3) 地球温暖化対策を推進した管理運営	34
基本目標3 スポーツを支える団体の支援と競技力の向上	35
1 地域スポーツ団体などの育成や支援	35
(1) スポーツによる地域コミュニティ活動の促進	35
(2) スポーツを通じた地域活動の担い手への支援	35
2 競技スポーツの振興や指導者の養成	36
(1) 競技スポーツに触れる機会の充実	36
(2) 指導者の発掘・養成	36
(3) 選手・団体への支援や市民周知	36
3 国スポ・全障スポに向けた人材育成等	37
(1) アスリートの発掘、育成、強化	37
(2) 国スポ・全障スポの開催に向けた体制づくり	37
基本目標4 スポーツを通じた交流の促進と地域の活性化	38
1 スポーツ交流事業の推進	38
(1) スポーツを通じた交流の推進	38
2 スポーツによる地域活性化等の推進	38
(1) スポーツを通じた地域活性化	38
第5章 計画の推進に向けて	39
1 計画の推進体制	39
2 計画の進行管理	39

1 計画策定の趣旨

本市では、国のスポーツ基本計画、長野県スポーツ推進計画を参酌するとともに、平成25年9月の東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京2020大会」という。）の開催決定、スポーツ立国の実現を使命とした平成27年10月のスポーツ庁創設などスポーツへの関心の高まりを踏まえて、平成29年3月に「佐久市スポーツ推進計画」（以下「前計画」という。）を策定しました。

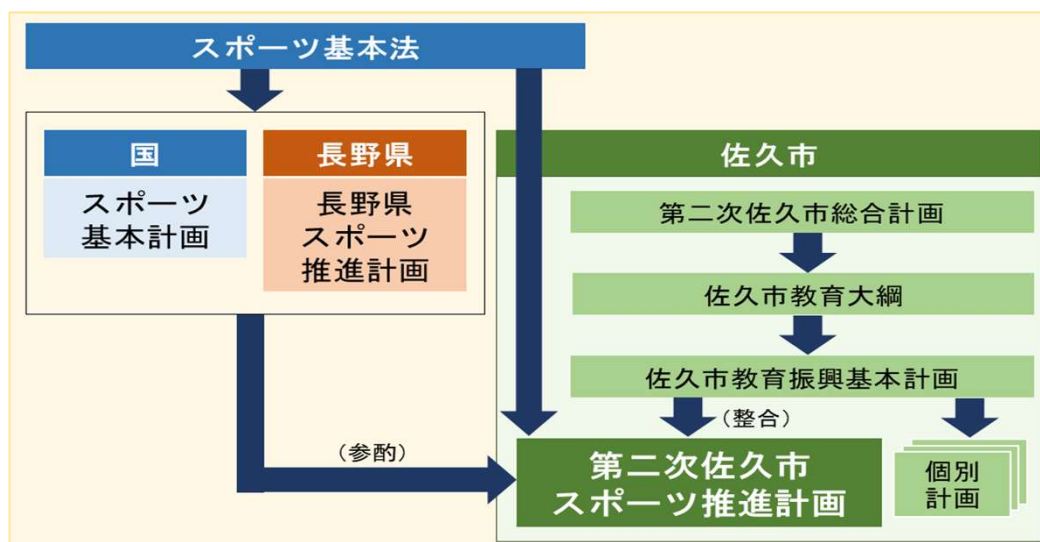
前計画では「快適健康都市 佐久」を目指し、スポーツを『する』『みる』『ささえる』の3つの関わり方として捉えるだけではなく、『健康のために意識的に行う身体活動』も含め、スポーツという概念や活動を広く定義付け、誰もが関われるスポーツ振興施策を総合的かつ計画的に推進してきました。

この間、少子・超高齢化に加え、社会活動や人々の生活に多大な影響を及ぼしている新型コロナウイルス感染症の感染拡大、東京2020大会の開催など、スポーツ分野を取り巻く環境は転換期を迎えており、市民意識の変化や新たなニーズが生まれております。

こうした状況に対応するため、前計画を見直し、令和4年度から令和8年度までの5年間におけるスポーツ振興施策の推進を図る指針として「第二次佐久市スポーツ推進計画」を策定します。

2 計画の位置付け

- ◆「スポーツ基本法」第10条第1項に規定されている「地方スポーツ推進計画」と位置付けます。
- ◆国の「スポーツ基本計画」と長野県の「長野県スポーツ推進計画」を参酌し、本市の特性を生かしたスポーツ振興施策を総合的かつ計画的に推進していくための計画として策定します。
- ◆「佐久市教育振興基本計画」のスポーツ分野における個別計画として整合性を図ります。



3 計画の期間

計画期間は、第二次佐久市総合計画と整合を図り、令和4年度から令和8年度までの5年間とします。

ただし、今後、国や県のスポーツ施策の動向や社会情勢の変化などに対応する必要が生じた場合には、期間中に計画を見直すこととします。

	R4	R5	R6	R7	R8	R9
国	第3期スポーツ基本計画 (R4~R8)					
県	第2次長野県スポーツ推進計画 (H30~R4)	(仮称) 第3次長野県スポーツ推進計画 (R5~R9) 予定				
佐久市	第二次佐久市総合計画 (H29~R8)					
	第二次佐久市スポーツ推進計画 (R4~R8)					

4 本計画におけるスポーツの定義

前計画では、「スポーツ」を幅広く捉え、自ら身体を動かして行う『する』スポーツ、競技を観戦する『みる』スポーツ、監督・コーチなどの指導者、スポーツ大会の審判やスタッフ、プロチームのファンやサポーターとして参加する『ささえる』スポーツのほか、日常生活における『健康のため意識的に行う身体活動』もスポーツとして定義し、市民誰もが関われるスポーツを推進してきました。

本計画においてもこの定義を踏襲するとともに、「スポーツ」とは何かという考え方について、国の第3期スポーツ基本計画を参酌し、以下のとおり整理をします。

- ◆スポーツは、『する』『みる』『ささえる』という様々な形での『自発的な』参画を通して、人々が感じる『楽しさ』や『喜び』に根源を持つ身体活動
- ◆こうした『楽しさ』や『喜び』を得られる身体活動を通して、心身の健全な発達、健康・体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心などの精神の涵養等を達成できるもの

これらの要素を加えて、本計画における施策を展開します。

5 SDGs（持続的な開発目標）への貢献

◆SDGs（持続可能な開発目標）とは

SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）は、「誰一人取り残さない（leave no one behind）」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。2015年の国連サミットにおいて全ての加盟国が合意した「持続可能な開発のための2030アジェンダ[※]」の中で掲げられました。2030年を達成年限とし、17のゴールと169のターゲットから構成されています。

◆SDGsの構造とは

17のゴールは、①貧困や飢餓、教育など未だに解決を見ない社会面の開発アジェンダ、②エネルギーや資源の有効活用、働き方の改善、不平等の解消などすべての国が持続可能な形で経済成長を目指す経済アジェンダ、そして③地球環境や気候変動など地球規模で取り組むべき環境アジェンダといった世界が直面する課題を網羅的に示しています。SDGsは、これら社会、経済、環境の3側面から捉えることのできる17のゴールを、統合的に解決しながら持続可能なよりよい未来を築くことを目標としています。

◆本計画における関連とは

SDGsが掲げる目標や方向性は、規模の違いはあるものの、その目指すべき方向性は同様であることから、基本目標と関連付けてスポーツ施策を展開します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



※アジェンダ：行動指針

1 我が国のスポーツを取り巻く情勢

我が国においてスポーツは、学校教育の要素が色濃く反映され、身体能力や知識などを身に付けることが中心の「体育」として捉えられてきました。

しかしながら、スポーツ庁は時代の変化に伴い「スポーツ」の語源である「気晴らし」「楽しみ」「遊び」という意味の原点に立ち返り、「人生を楽しく、健康的で生き生きとしたものにするために、誰もが自由に身体を動かし、自由に観戦し、楽しめるものであるべき」として、価値観や役割が大きく見直されました。

このことから、「体育」に替わり「スポーツ」が団体やイベント等の名称に広く使われるようになりました。

例えば、「公益財団法人日本スポーツ協会」「公益財団法人長野県スポーツ協会」への改称のほか、昭和39年の東京オリンピックを記念して、定められた「体育の日」は、東京2020大会の開催を契機に「スポーツの日」と改められました。

このほか、日本最大の国民スポーツの祭典である「国民体育大会」も令和6年に開催予定の佐賀県大会から「国民スポーツ大会（以下「国スポ」という。）」に改称されることが決定しています。

また、国民意識の中では、東京2020大会で新種目として採用されたBMX※、スケートボード、スポーツクライミングなどの「アーバンスポーツ（都市型スポーツ）」や障がいの有無、年齢を問わずプレーできる「ボッチャ」での日本人選手の活躍により、これらのスポーツへの関心の高まり、ニーズが生まれています。

一方で、世界各地でまん延している新型コロナウイルス感染症は、私たちの社会活動や人々の日々の生活に多大な影響を及ぼしており、その中で外出自粛等に伴う運動不足による身体的・精神的な健康に悪影響をもたらす健康二次被害の問題が生じています。

こうした「東京2020大会」「新型コロナウイルス感染症拡大」という大きな2つの出来事により「スポーツの価値」が再確認される契機となり、人生100年時代※において、さらなるスポーツの楽しみ方や意義を考え、取り組んでいくことが求められています。

アーバンスポーツ or ボッチャ
写真



スポーツクライミング教室

※BMX：自転車競技の一つで、レースやフリースタイルといった種類があり、競技のために特化されたシンプルな構造の自転車を駆使してスピードや技を競い合うものです。

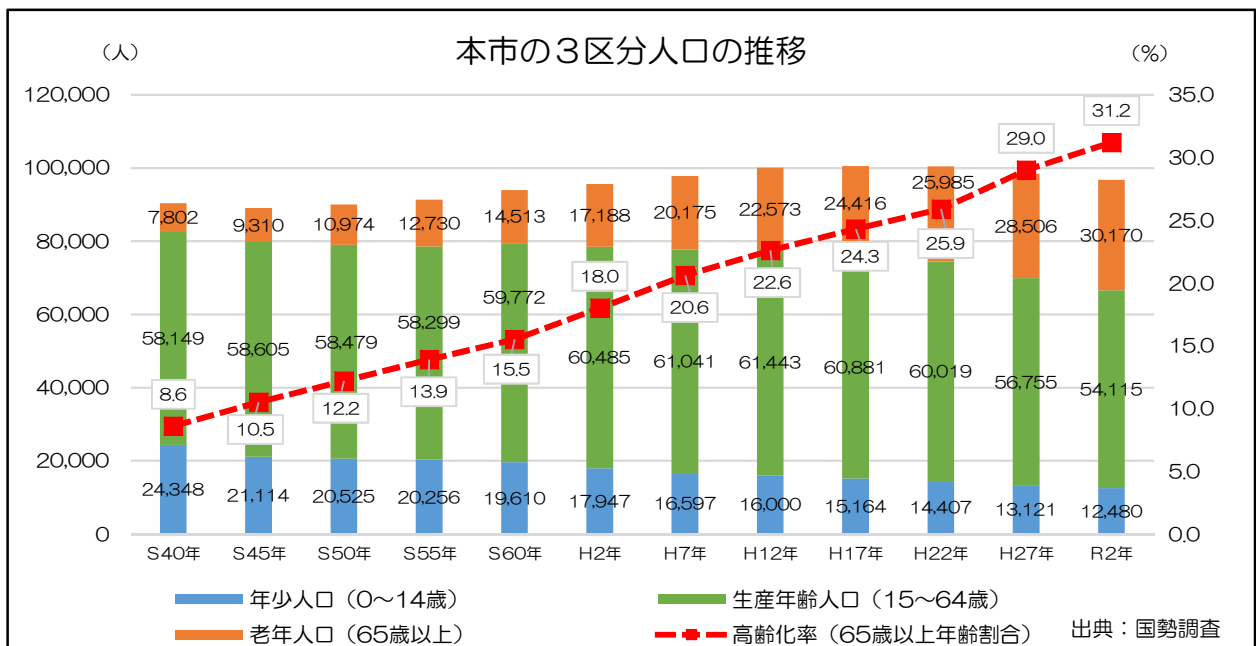
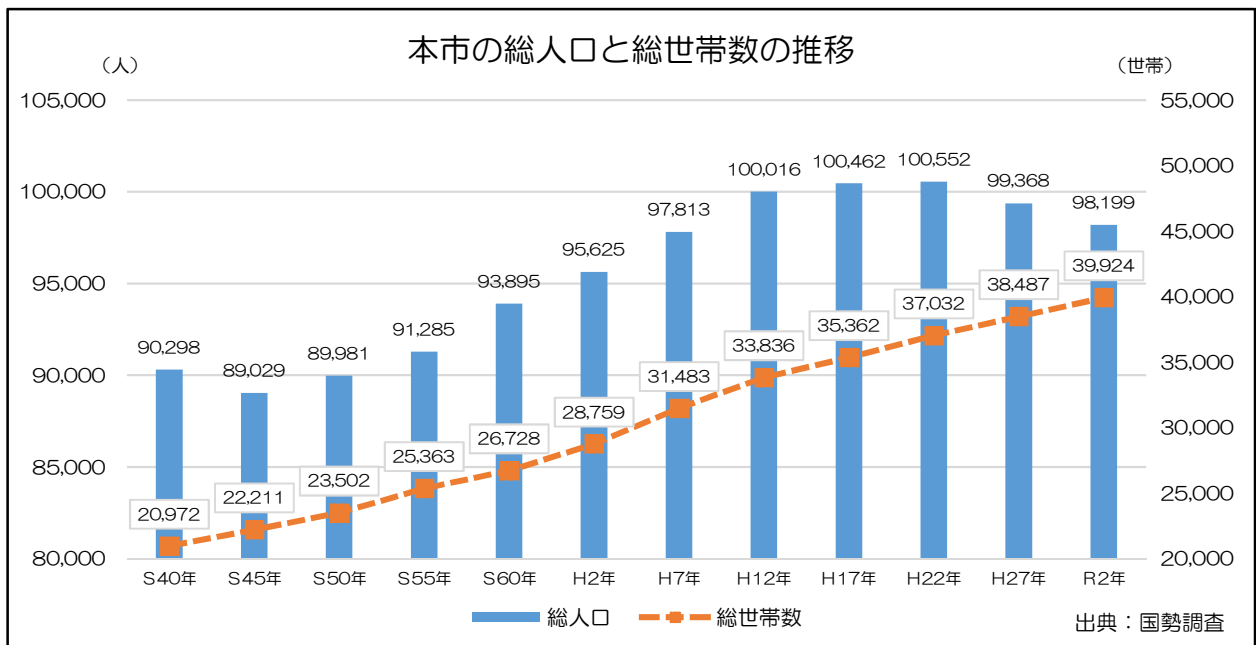
※人生100年時代：平均寿命の伸びにより、100歳まで生きるのが当たり前になる時代がくるという考え方。

2 佐久市の現状

(1) 佐久市の人口

本市の令和2年の人口は、98,199人と、県内第4位の人口規模を有しています。平成27年に比べ、1.2%減少しており、昭和45年以降、増加傾向で推移してきた人口が、平成27年に45年振りに減少に転じた後も継続して減少が続いています。

一方、総世帯数は、39,924世帯で、平成27年と比べ3.7%増加と、一貫して増加傾向が続いています。しかし、核家族化や世帯の単身化により、令和2年における1世帯当たりの人員は、2.5人まで縮小しています。



総人口には年齢不詳が含まれるため、3区分人口の合算値とは一致しません。

(2) 体育施設の現況及びその利用状況

本市には、47の社会体育施設*があり、新型コロナウイルス感染症の影響（令和元年度、令和2年度）を除くと概ね利用者数は増加傾向となっています。

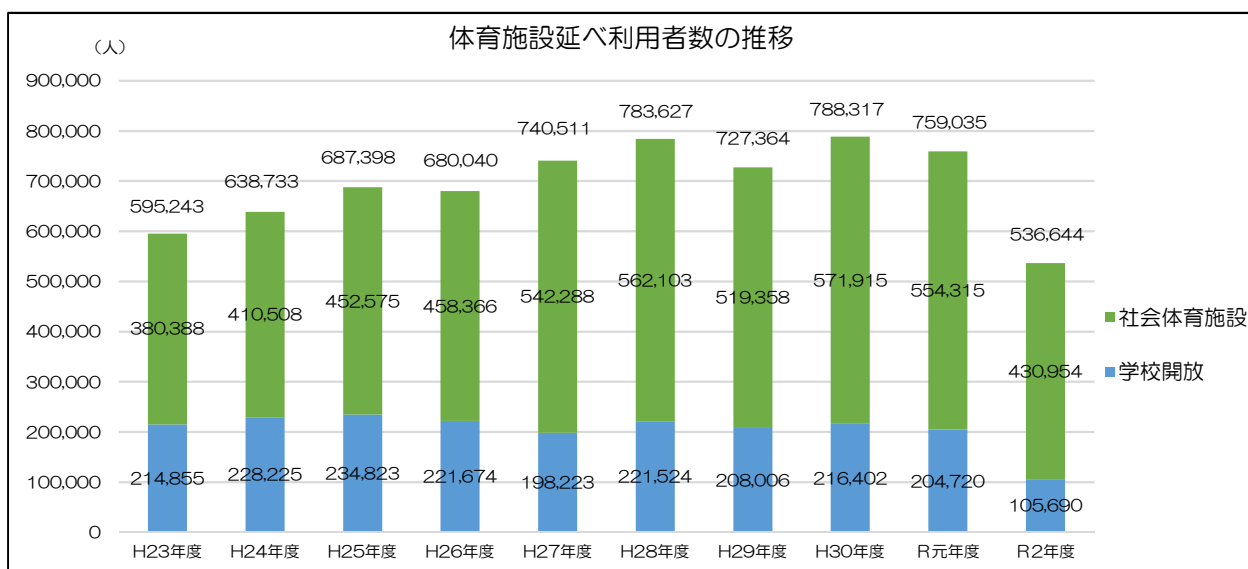
このほか、市内にある公立小中学校24校の校庭及び体育館を学校教育に支障のない範囲で市民に開放しています。

佐久市総合体育館については、利用者の利便性向上や市民の健康保持のため、冷暖房設備の整備やトレーニング室の改修を行いました。

また、市民のスポーツ・レクリエーション活動の拠点や広域スポーツ交流の中核施設として整備を進めてきました「佐久総合運動公園」の整備が令和2年度に完了しました。

その他の施設においても順次必要に応じた改修工事を計画的に進めており、現在、臼田総合運動公園の利便性向上のため、大規模な改修・整備を進めています。

*社会体育施設：令和4年度から駒場公園の「プール」「テニスコート」「弓道場」を含みます。



出典：主要施策の成果報告書



佐久総合運動公園

【体育館】

No.	地区	施設名	開設年月
1	佐久	佐久市総合体育館	昭和53年9月
2		佐久市勤労者体育館	昭和51年12月
3		東地区社会体育館	昭和58年10月
4		内山地区社会体育館	昭和59年4月
5		大沢地区社会体育館	昭和61年4月
6		浅間体育センター	平成3年4月
7		野沢体育センター	平成9年4月
8	臼田	臼田体育センター	昭和50年4月
9	望月	望月総合体育館	昭和59年7月
10		布施体育館	昭和62年11月
11		春日体育館	昭和53年11月
12		本牧体育館	昭和51年4月

【グラウンド】

No.	地区	施設名	開設年月
13	佐久	佐久市営グラウンド	昭和47年4月
14		千曲川スポーツ交流広場	平成2年7月
15		佐久総合運動公園野球場	平成31年4月
16	臼田	臼田総合運動公園多目的広場	昭和62年5月
17	浅科	浅科総合グラウンド	昭和50年4月
18		浅科御牧原台地グラウンド	平成12年7月
19	望月	望月総合グラウンド	昭和52年9月

【陸上競技場等】

No.	地区	施設名	開設年月
20	佐久	佐久総合運動公園陸上競技場	平成25年4月
		佐久総合運動公園補助競技場	平成26年4月
21		佐久総合運動公園クロスカントリーコース	令和2年11月

【武道館等】

No.	地区	施設名	開設年月
22	佐久	駒場弓道場	昭和58年3月
23	臼田	臼田武道館	昭和59年3月
24		佐久市臼田弓道場	平成23年5月
25	浅科	浅科柔剣道場	昭和58年1月

【テニスコート】

No.	地区	施設名	開設年月
26	佐久	鼻顔公園テニスコート	昭和52年11月
27		千曲川運動広場テニスコート	昭和61年4月
28		駒場テニスコート	昭和57年3月
29	臼田	臼田テニスコート	平成元年7月
30	望月	望月テニスコート	平成3年8月

【ゲートボール場等】

No.	地区	施設名	開設年月
31	佐久	千曲川スポーツ交流広場屋外ゲートボール場	平成31年4月
32	臼田	臼田ふれあいゲートボール場	平成5年4月
33		臼田屋外ゲートボール場	平成3年4月
34	浅科	浅科多目的屋内運動場	平成7年7月
35		浅科御牧ゲートボール場	平成5年4月
36	望月	望月屋内ゲートボール場	平成元年5月
37		望月屋外ゲートボール場	昭和57年4月

【マレットゴルフ場】

No.	地区	施設名	開設年月
38	佐久	洞源湖マレットゴルフ場	平成13年8月
39		駒場公園マレットゴルフ場	平成28年6月
40		佐久総合運動公園マレットゴルフ場	平成22年8月
41		千曲川スポーツ交流広場マレットゴルフ場	平成10年9月
42	臼田	臼田総合運動公園マレットゴルフコース	平成4年11月
43	浅科	浅科石尊山マレットゴルフ場	平成6年12月
44	望月	望月マレットゴルフ場	平成4年4月

【プール】

No.	地区	施設名	開設年月
45	佐久	駒場プール	昭和57年6月

【その他】

No.	地区	施設名	開設年月
46	臼田	臼田総合運動公園管理センター	平成2年5月
47		臼田総合運動公園宿泊棟	平成4年5月

(3) スポーツ教室、スポーツ大会・イベントの開催状況

ア スポーツ教室
<p>本市では、スポーツを始めるきっかけづくりやスポーツに親しんでいただくことを目的に年間を通じて様々なスポーツ教室を開催しています。</p> <p>教室の対象者は初心者で、参加者の技術力に応じた指導を行っています。</p>

【スポーツ教室の開催件数及び参加者数（延べ人数）】

年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
開催件数	33件	35件	34件	30件
参加者数（延べ人数）	5,360人	5,142人	4,759人	3,007人

※令和元年度、令和2年度は、令和元年東日本台風や新型コロナウイルス感染症の影響により、開催が中止となった教室があります。

イ スポーツ大会・イベント
<p>本市では、各種競技団体などと連携して、さまざまなスポーツ大会・イベントを開催し、スポーツを通じた交流の推進や競技力の向上を図っています。</p> <p>各年度のスポーツ大会の開催件数は50件を超え、スポーツイベントはトップアスリートによる教室や講演会などを開催しています。</p>

主なスポーツ大会（平成29年度～令和3年度）	主なスポーツイベント（平成29年度～令和3年度）
佐久市強歩大会	佐久市ハーフマラソン大会 事前ランニング教室
佐久市壮年ソフトボール大会	宝くじスポーツフェアはつらつまママさんバレーボール
佐久市民ゴルフ大会	あすチャレ！スクール
佐久市ママさんバレーボール大会	オリンピックとの交流イベント【陸上編】（川元奨選手ほか）
佐久市少年野球大会	ユニバーサル・ラン〈スポーツ義足体験授業〉
佐久市少女ミニバス大会	パラスポーツ体験フェスティバル
a b n 佐久市ジュニアゴルフ大会	オリンピックとの交流イベント【スケート編】（菊池彩花氏）
佐久市寿ゲートボール大会	特別巡回ラジオ体操・みんなの体操会
佐久市マレットゴルフ大会	SOMPOボールゲームフェスタ in 佐久
佐久市望月強歩大会	プロ野球イースタンリーグ
佐久市プラチナ寿ママさんバレーボール大会	読売ジャイアンツ対東北楽天ゴールデンイーグルス
佐久市ハーフマラソン大会	BCリーグ信濃グランセローズ対読売ジャイアンツ3軍
佐久市少年少女サッカー大会	高校野球招待試合 作新学院高校対佐久長聖高校・岩村田高校
佐久市小学生ドッジボール大会	宝くじスポーツフェア ドリーム・ベースボール
佐久市・和光市スポーツ交流会	エストニア共和国 世界柔道選手権事前合宿受入
佐久市・静岡市親善スポーツ交流会	オリンピックとの交流イベント【サッカー編】（武田修宏氏ほか）
銀河連邦星のまちスピードスケート親善大会（市民スケート大会併催）	世界柔道選手権 エストニア選手応援ツアー
佐久市小学生駅伝大会兼市町村対抗小学生駅伝佐久市代表選手選考会	あすチャレ！運動会
市民元旦マラソン大会	佐久総合運動公園クロスカントリーコース竣工記念イベント 佐久市小学生駅伝大会
佐久市民スキー大会	東京2020オリンピック聖火リレー
臼田ソフトボール大会	エストニア共和国オリンピック選手団事前合宿
望月グランドゴルフ大会	東京2020パラリンピック聖火フェスティバル

※令和元年度、令和2年度は、令和元年東日本台風や新型コロナウイルス感染症の影響により、開催が中止となった大会・イベントがあります。

(4) 地域スポーツ団体などの状況

ア 特定非営利活動法人佐久市体育協会

特定非営利活動法人佐久市体育協会（以下「体育協会」という。）は、本市における総合体育団体で、スポーツを振興し、市民の体力向上を図り、スポーツ文化の高揚に努力し、スポーツ精神を養うことに寄与することを目的としています。

令和4年3月末現在、4支部、加盟競技団体は34競技部で、各種スポーツ大会・イベントの開催など、地域スポーツの振興を図り、市民の健康づくりの推進や体力向上に取り組んでいます。

イ 佐久市スポーツ少年団

佐久市スポーツ少年団（以下「スポーツ少年団」という。）は、スポーツによる青少年の健全育成を目的に創立された日本スポーツ少年団、長野県スポーツ少年団の下部組織です。毎年、県交流大会や東信交流大会といった各種大会や研修会などへ多くの団員や指導者が参加するなど、幅広く活動しています。

令和3年8月末現在、49団体、団員数1,098人、指導者247人が登録しています。

ウ 総合型地域スポーツクラブ

総合型地域スポーツクラブは、文部科学省が設置を促進している団体の1つで、子どもから高齢者まで、様々なスポーツを愛好する人々が、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できるという特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブです。

本市には、「岸野スポーツクラブ」と「NPO法人もちづき総合型クラブ」の2団体があり、年間を通じて様々な活動を行っています。

エ 佐久市スポーツ推進審議会

佐久市教育委員会の諮問に応じて、スポーツの推進に関する重要事項を調査、審議するために設置しています。
(令和4年3月現在、委員9名)

オ 佐久市スポーツ推進委員

佐久市スポーツ推進委員（以下「スポーツ推進委員」という。）は、スポーツ基本法第32条に基づき、佐久市教育委員会から委嘱された非常勤の公務員です。

委員は、スポーツを推進する事業の実施に係る連絡調整やスポーツの指導・助言を担い、市民がスポーツに参加し楽しみながら続けられるよう、スポーツをする人の支え手として、様々な活動に取り組んでいます。

(令和4年3月現在、委員21名)

(5) 子どもの体力・運動能力の現状

令和3年度の調査結果に差し替えます

文部科学省では、児童・生徒の体力や生活習慣、運動習慣等の状況を把握するため、小学校5年生と中学校2年生を対象に毎年「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」を実施しています。

令和元年度の体力合計点では、市内の小学校5年生男子及び中学校2年生男女が全国平均を下回っています。

また、運動が好き・やや好きと回答した割合は、すべての区分において全国、長野県の平均を上回っていますが、1週間の総運動時間が60分以上と回答した割合は、全国の平均を下回っています。

全国平均を50点とした場合の体力合計点

区 分		令和元年度
小学校 5年生 男 子	全 国	50.0点
	長野県	50.5点
	佐久市	49.9点
小学校 5年生 女 子	全 国	50.0点
	長野県	50.3点
	佐久市	50.2点
中学校 2年生 男 子	全 国	50.0点
	長野県	49.4点
	佐久市	49.8点
中学校 2年生 女 子	全 国	50.0点
	長野県	50.5点
	佐久市	49.3点

運動が好き・やや好きと回答した割合

区 分		令和元年度
小学校 5年生 男 子	全 国	93.3%
	長野県	94.9%
	佐久市	96.9%
小学校 5年生 女 子	全 国	87.6%
	長野県	89.3%
	佐久市	91.2%
中学校 2年生 男 子	全 国	89.4%
	長野県	91.5%
	佐久市	92.6%
中学校 2年生 女 子	全 国	79.2%
	長野県	78.8%
	佐久市	80.1%

1週間の総運動時間が60分以上と回答した割合

区 分		令和元年度
小学校 5年生 男 子	全 国	92.3%
	長野県	91.6%
	佐久市	92.0%
小学校 5年生 女 子	全 国	87.0%
	長野県	83.2%
	佐久市	85.0%
中学校 2年生 男 子	全 国	92.9%
	長野県	91.5%
	佐久市	92.8%
中学校 2年生 女 子	全 国	80.6%
	長野県	75.9%
	佐久市	76.8%



佐久市小学生ドッジボール大会

(6) 市民のスポーツ活動の現状

本計画を策定をするに当たり、市民のスポーツに対する意欲や日頃のスポーツへの関わりなどを把握し、今後のスポーツ振興施策に反映するため、令和3年4月に「佐久市民スポーツに関するアンケート調査」（以下「市民アンケート」という。）を実施しました。

「佐久市民スポーツに関するアンケート調査」の概要

調査対象

令和3年4月1日を基準日として、住民基本台帳から無作為に抽出した10歳以上の市民1,000人

調査方法

郵送方式（配布及び回収）

調査期間

令和3年4月30日（金）
～令和3年5月28日（金）

回答数

427件

回答率

42.7%

回答者の属性

【性別】

性別	人数	割合
男性	191人	44.7%
女性	229人	53.6%

※無回答があるため100%になりません

【年代別】

年齢	人数	割合
10代	43人	10.1%
20代	25人	5.9%
30代	37人	8.7%
40代	60人	14.1%
50代	76人	17.8%
60代	87人	20.4%
70代以上	95人	22.2%

※無回答があるため100%になりません



空手道スポーツ少年団



佐久市少女ミニバス大会

ア スポーツ・運動の実施状況（スポーツ実施率）

◆「週1日以上の実施率」は、全体で49.9%で、平成27年度調査時31.7%と比べて18.2ポイントの上昇となっています。

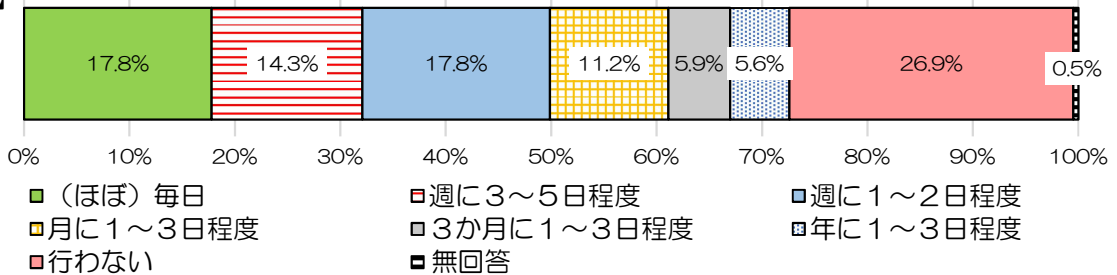
男女別では、女性は週1日以上の実施率が53.8%と半数を超えていますが、男性は45.5%と半数に満たない状況となっています。

年代別では、10代が83.8%と最も高く、40代と50代は40.0%に満たない状況となっています。

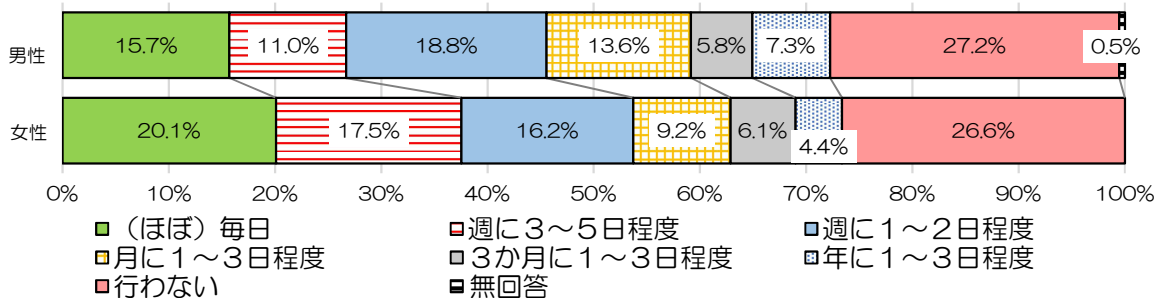
◆「成人（20歳以上）週1日以上の実施率」は、45.8%と、国が第2期スポーツ基本計画で定めていた目標値65.0%を19.2ポイント下回る状況となっています。

【スポーツ実施率】

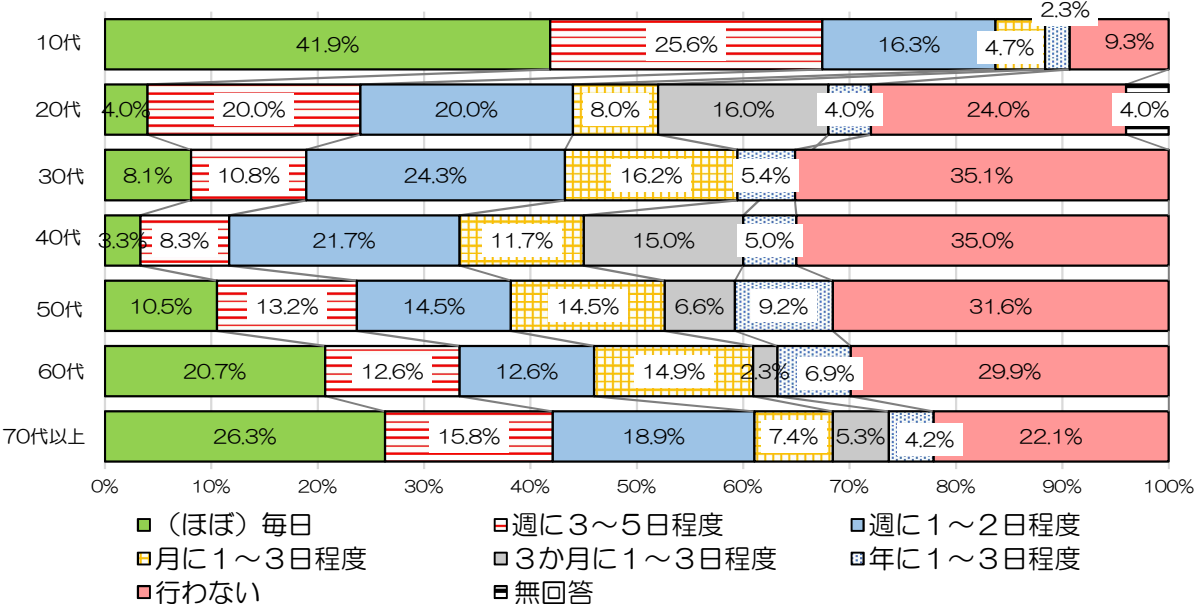
【全体】



【性別】

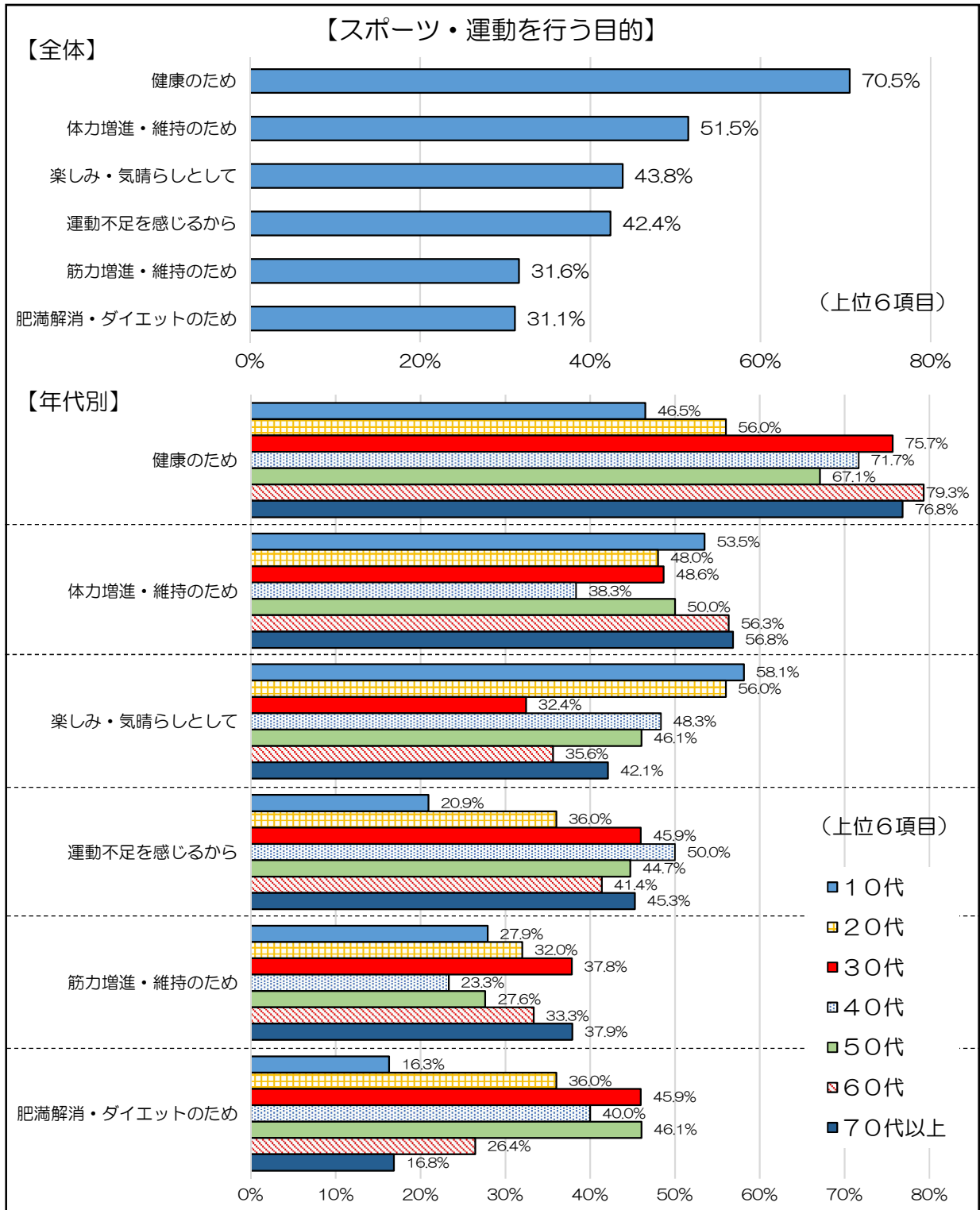


【年代別】



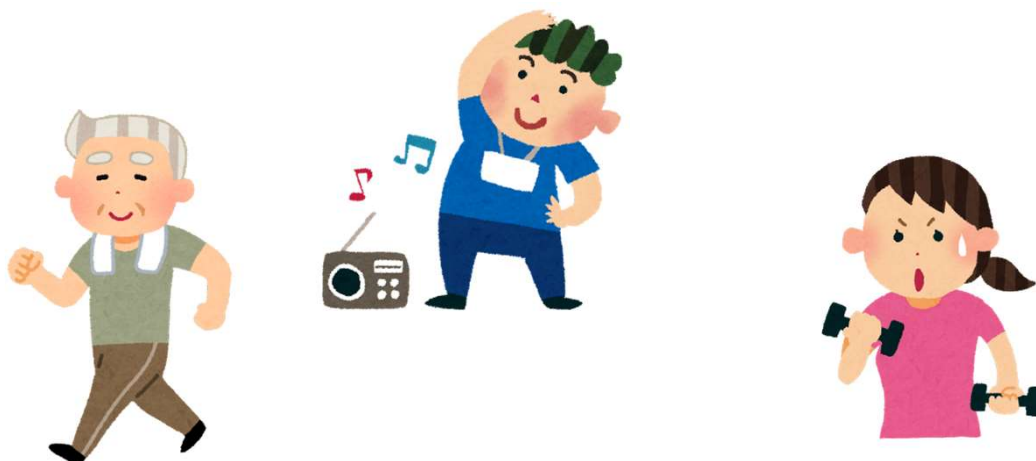
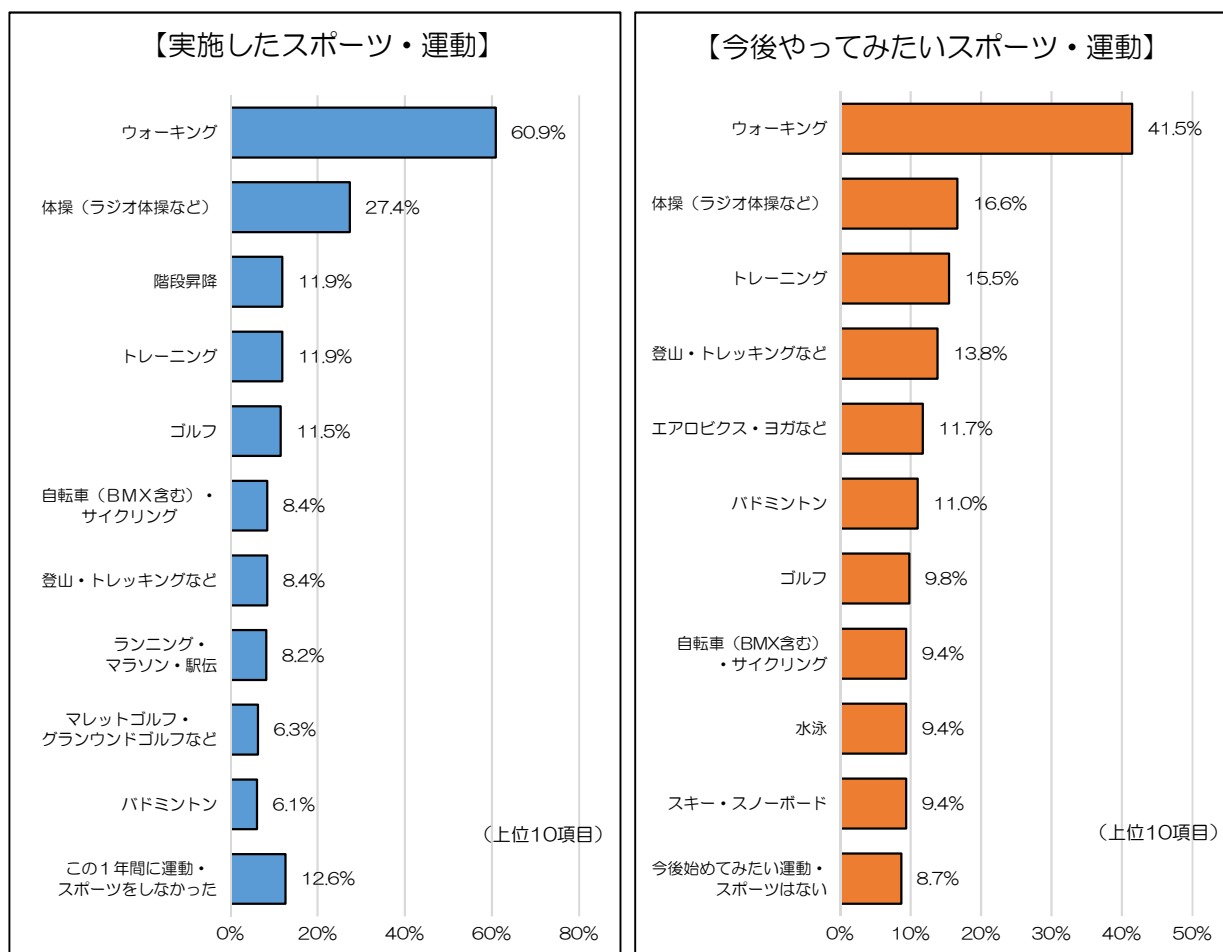
イ スポーツ・運動を行う目的（複数回答）

◆スポーツ・運動を行う目的は「健康のため」70.5%、次いで「体力増進・維持のため」51.5%、「他楽しみ・気晴らしとして」43.8%との回答が続きました。
アンケート回答者の74.5%を40代以上の中高年齢層が占めていることから、健康づくりや体力づくりへの志向が強いものと考えられます。



ウ 実施したスポーツ・運動、やってみたいスポーツ・運動（複数回答）

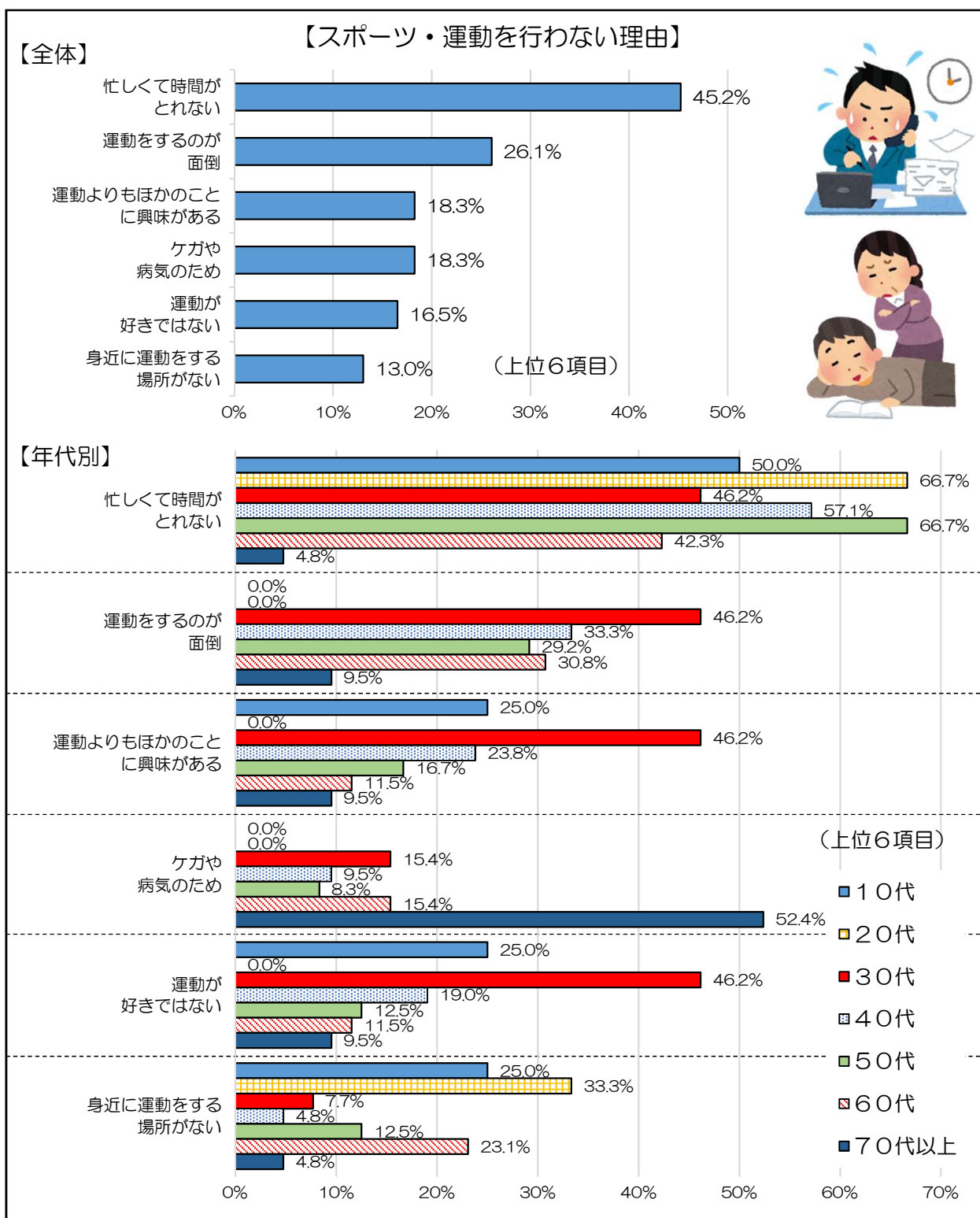
◆実施したスポーツ・運動は「ウォーキング」60.9%、次いで「体操（ラジオ体操など）」27.4%、「階段昇降」11.9%との回答が続きました。今後やってみたいスポーツ・運動は「ウォーキング」41.5%、次いで「体操（ラジオ体操など）」16.6%、「トレーニング」15.5%との回答が続き、日常生活のなかで、気軽に行うことができるスポーツ・運動が好まれる傾向があります。



エ スポーツ・運動を行わない理由（複数回答）

◆スポーツ・運動を行わない理由は「忙しくて時間がとれない」45.2%、次いで「運動をするのが面倒」26.1%、「運動よりほかのことに興味がある」18.3%との回答が続いています。

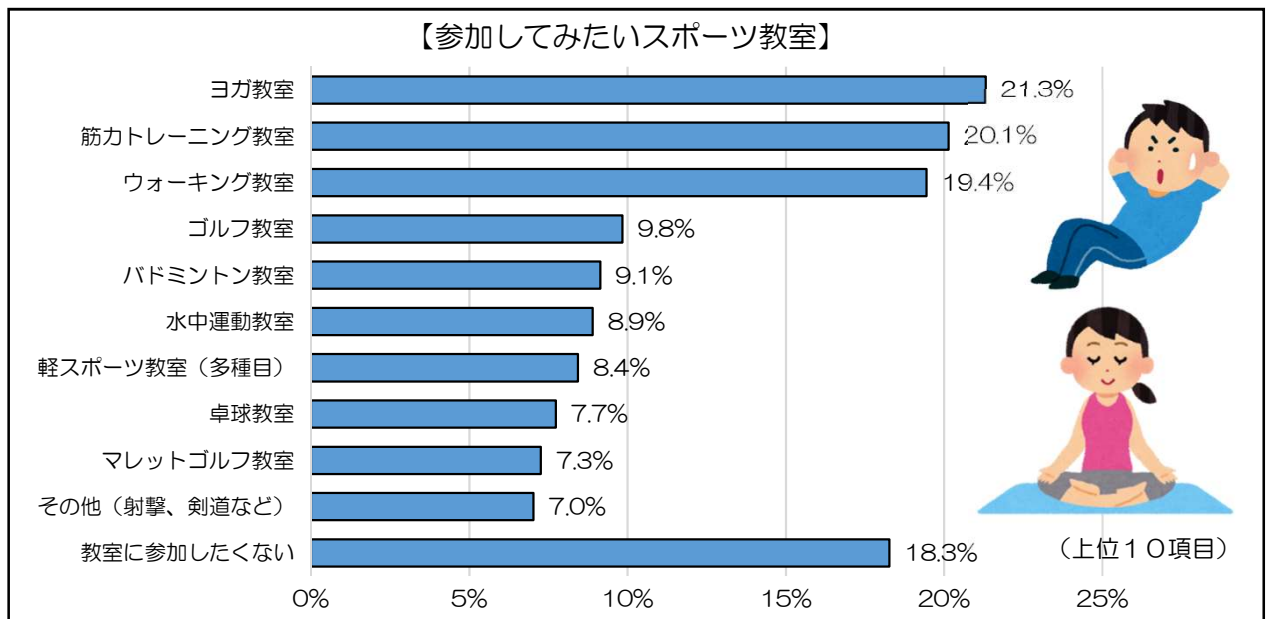
スポーツ・運動を行わない人へのアプローチとして、短時間で気軽にできるスポーツなどの普及が重要と考えられます。



オ 参加してみたいスポーツ教室（複数回答）

◆今後、参加してみたいスポーツ教室は「ヨガ教室」21.3%、次いで「筋カトレニング教室」20.1%、「ウォーキング教室」19.4%との回答が続きました。

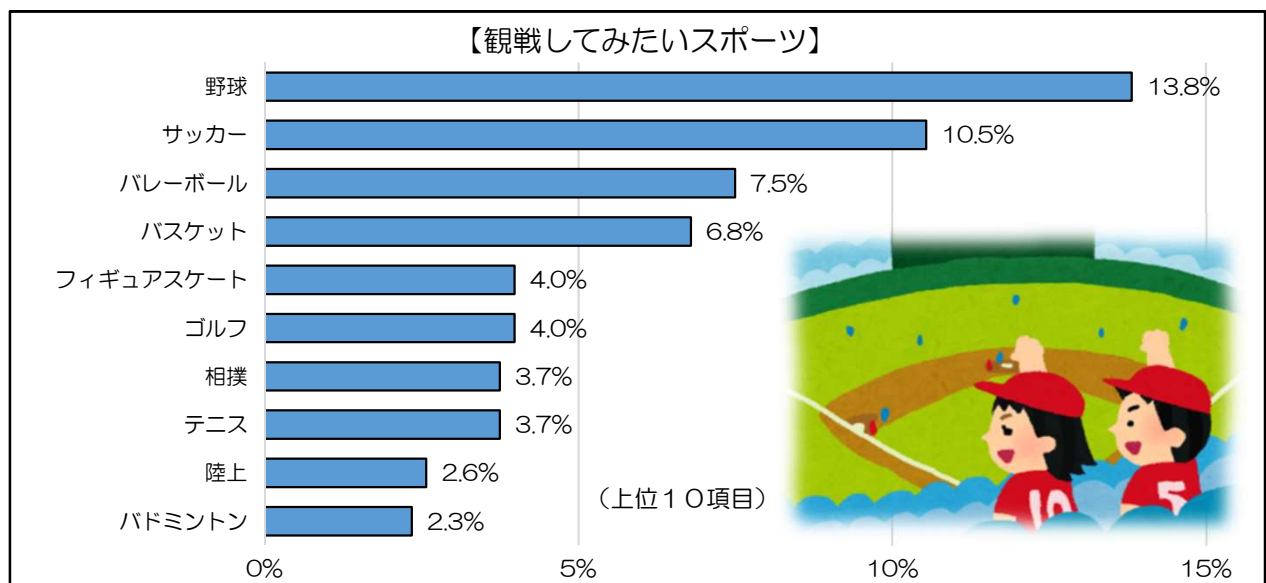
「今後やってみたいスポーツ・運動」の回答と同様に日常生活のなかで、気軽に行うことができるスポーツ・運動が上位になっています。



カ 観戦してみたいスポーツ（複数回答）

◆観戦してみたいスポーツは「野球」13.8%、次いで「サッカー」10.5%、「バレーボール」7.5%との回答が続きました。

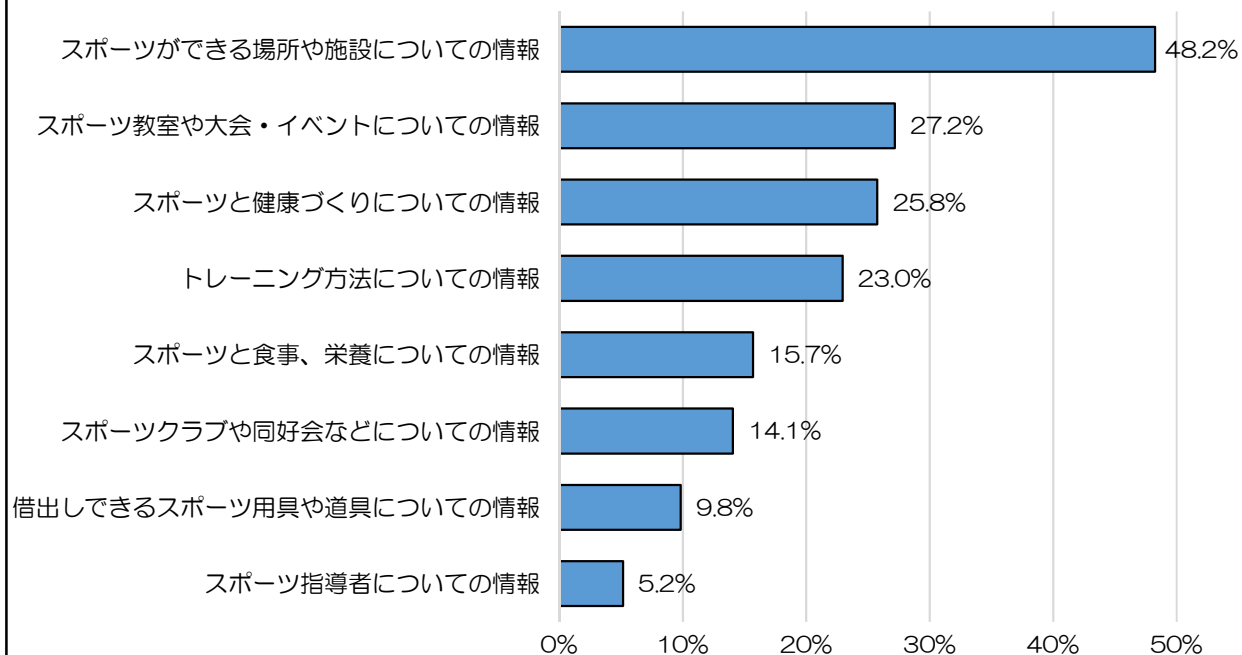
テレビ放送などが行われたり、身近な会場で観たりすることができる競技が上位を占めています。



キ スポーツに関する情報で今後発信してもらいたい情報（複数回答）

◆スポーツに関する情報で今後発信してもらいたい情報は、「スポーツができる場所や施設についての情報」48.2%、次いで「スポーツ教室や大会・イベントについての情報」27.2%、「スポーツと健康づくりについての情報」25.8%との回答が続きました。
今後、市民が求めているスポーツに関する情報について、多様な媒体を活用し、広く周知する必要があります。

【今後発信してもらいたい情報】

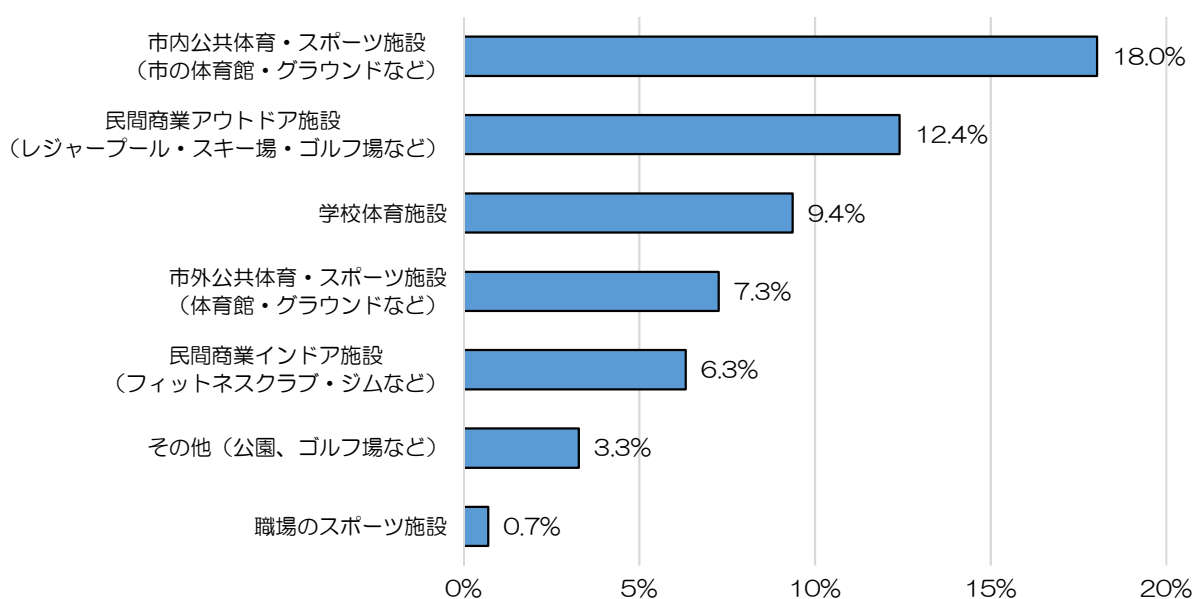


ク よく利用するスポーツ施設（複数回答）

◆よく利用するスポーツ施設は、「市内公共体育・スポーツ施設（市の体育館・グラウンドなど）」18.0%、次いで「民間商業アウトドア施設（レジャープール・スキー場・ゴルフ場など）」12.4%、「学校体育施設」9.4%との回答が続きました。

市内の公共施設のみならず、多くの民間施設や市外の公共施設なども利用していることがうかがえます。

【よく利用するスポーツ施設】



佐久市プラチナ寿（ことぶき）ママさん
バレーボール大会

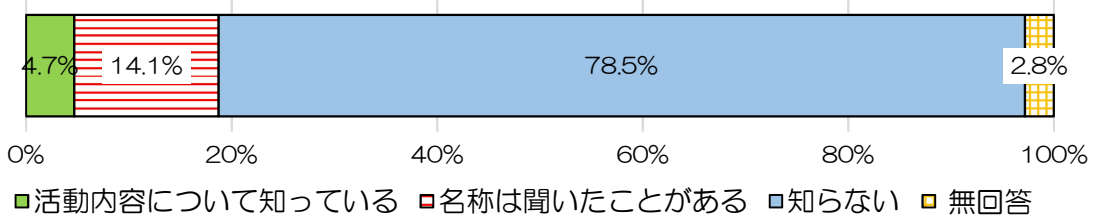


佐久市マレットゴルフ大会

ケ 総合型地域スポーツクラブの知名度

◆文部科学省が設置を促進している総合型地域スポーツクラブについて、「活動内容について知っている」が4.7%、「名称は聞いたことがある」が14.1%で、把握している人は、約5人に1人とどまっております、「知らない」が圧倒的に多い78.5%を占めています。

【総合型地域スポーツクラブの知名度】

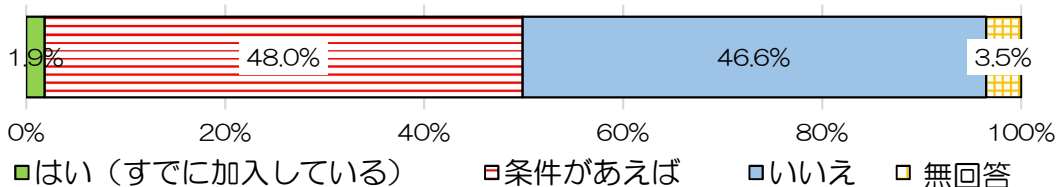


コ 総合型地域スポーツクラブへ加入したいか

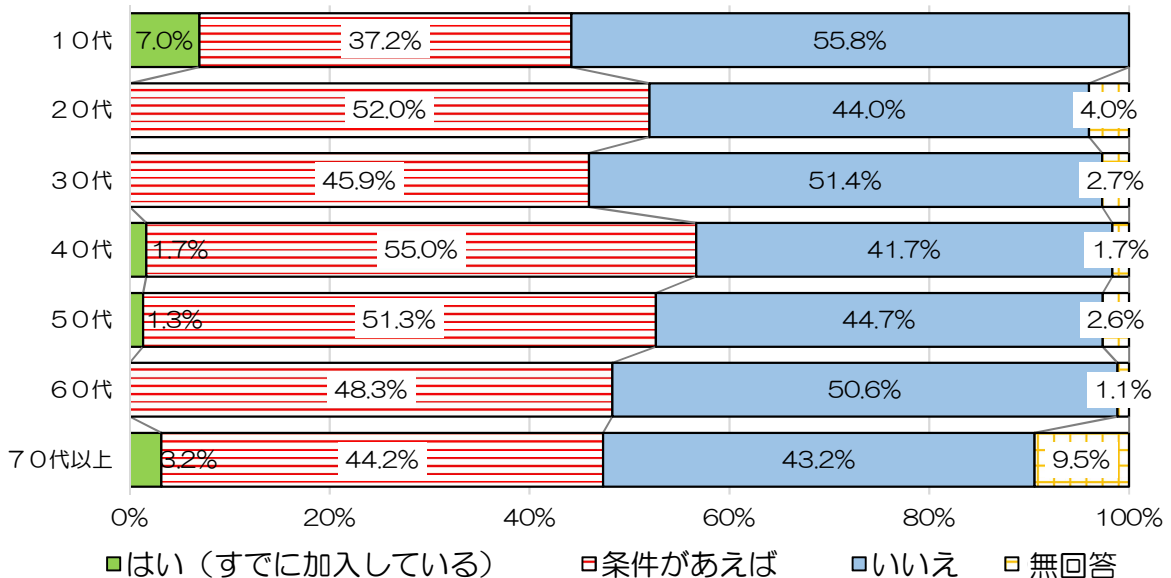
◆身近に総合型地域スポーツクラブへ加入したいと思う人は、「条件があれば」が48.0%、「いいえ」が46.6%、「はい（すでに加入している）」が1.9%となっています。

直近における加入者の増加には「条件があれば」と考えている人について、希望する条件の把握などが重要となります。

【全体】 【総合型地域スポーツクラブに加入したい】

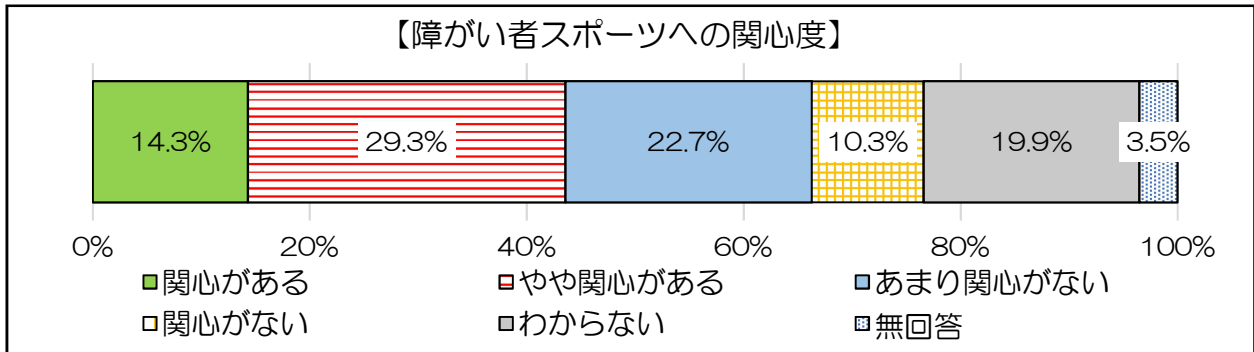


【年代別】



サ 障がい者スポーツへの関心度

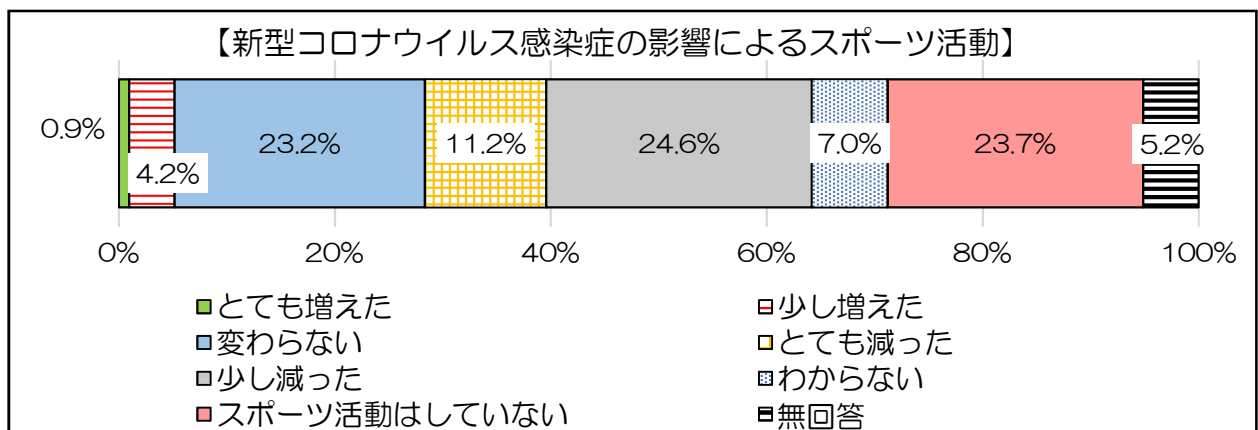
◆障がい者スポーツについて、「関心がある」が14.3%、「やや関心がある」が29.3%で、4割以上の方が一定の関心を持っている状況となっています。東京2020大会を契機として、障がい者スポーツへの関心の高まっていることから、市民への普及啓発が重要と考えられます。



シ 新型コロナウイルス感染症の影響によるスポーツ活動

◆この1年間で新型コロナウイルス感染症の影響によりスポーツ活動は、「少し減った」が24.6%、「とても減った」が11.2%で、3割以上の方が減ったと回答しています。

新型コロナウイルス感染拡大の防止に伴う、外出自粛等やスポーツ大会・イベントの中止、施設の休館などの影響があったものと考えられます。



3 佐久市の課題

本計画の策定に当たり、社会情勢や本市の現状（市民アンケートの結果等）を踏まえ、今後のスポーツ施策を推進するための課題を整理しました。

子どものスポーツ推進

子どもがスポーツに親しむことは、運動機能の形成に影響する重要な役割を果たすとともに、生涯にわたりスポーツに親しむきっかけになるものです。

しかしながら、全国的には積極的に運動をする子どもとしない子どもの二極化が続いていると指摘されています。

また、中学校における運動部活動は、人間形成の機会や多様な生徒が活躍できる場であるとともに、生涯にわたるスポーツのきっかけ作りや各種スポーツの競技力の向上として大きな役割を果たしています。

しかし、教師の長時間勤務の要因となっていることや、指導経験がない教師には多大な負担となっているなど様々な課題があります。

働き盛り、子育て世代のスポーツ推進

市民アンケートの結果から、働き盛り、子育て世代における週1日以上スポーツ実施率は低い傾向であり、特に40代については、33.3%と各世代で最も低い状況です。

この世代は、仕事や家事、育児などに伴い、自由な時間が減少し、スポーツへの興味や関心が薄れ、スポーツをする機会が少なくなりがちであることから、スポーツ活動に対する意識付けやスポーツ習慣の定着が課題となっています。

このため、短時間で気軽にできるスポーツの普及を図るほか、子どもと一緒にスポーツに参加できる環境を整える必要があります。

高齢者のスポーツ推進

超高齢化社会を迎え、高齢者にとってのスポーツは、体力や運動能力の維持向上のほか、仲間づくりや生きがい、ストレス解消など重要な役割を果たしています。

市民アンケートの結果からも、高齢者がスポーツをする目的として、「健康のため」「体力増進・維持のため」と回答する割合が高いことから、健康の保持増進や介護予防への関心が高いことがうかがえます。

高齢者が心身ともに充実し、健康で生き生きした生活を送ることは、「健康寿命」の延伸につながるため、今後さらに高齢者のスポーツ活動を推進していく必要があります。



障がい者のスポーツ推進

障がい者にとってスポーツに参加することは、生活をより豊かにし、生きがいや自立につながるとともに、地域において様々な交流機会を生むことから重要な役割を担っています。

このため、障がい者が個々の状態に応じて、日常的にスポーツに親しみ、気軽に参加できる環境づくりが課題となっています。

また、東京2020大会での日本人選手の活躍により、「ボッチャ」や「車いすバスケットボール」などへの関心が高まっていることから、障がい者スポーツに対する理解を深めるため、体験教室などを通じた市民への普及啓発が重要となります。

計画的な施設整備の推進

本市では、体育館をはじめ、陸上競技場、野球場、マレットゴルフ場など多くの社会体育施設を設置しており、市民がスポーツに親しめる環境を提供しています。

市民アンケートの結果から、よく利用するスポーツ施設は、「市内公共体育・スポーツ施設（市の体育館・グラウンドなど）」が最も高い割合となっています。

これらの社会体育施設の多くは、建設から年月が経過し老朽化が進んでいることから、利用者が安心・安全に利用できるよう、施設の適正な維持管理を図るとともに、統廃合も含めた計画的な整備を推進していくことが重要となっています。

また、施設の維持管理や整備には、多額の経費を要することから、長期的な視点で、財源確保など財政面の効率的なアプローチも検討する必要があります。

施設の管理運営に関する民間団体との連携・協働

本市の社会体育施設は、行政事務の効率化や低コスト化などを図るため、民間団体などのノウハウを生かした、指定管理者制度による施設の管理運営を行っています。

今後、DX（デジタル・トランスフォーメーション）※の推進として、デジタル技術やデータなどを活用することにより、住民の利便性を向上させるとともに、業務の効率化や行政サービスの更なる向上を図ることが重要と考えられます。

特に予約システムについては、利用者が空き状況の照会や予約の申込みがしやすいシステムの再構築を検討していく必要があります。

地域スポーツ団体などの育成や支援

市民が生涯にわたってスポーツに親しむためには、地域スポーツを支えている体育協会、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブなどの関係団体が重要な役割を担っています。

しかしながら、これらの関係団体では、指導者の高齢化や不足が課題となっていることから、今後も安定的かつ継続的な活動ができるよう、支援を行う必要があります。

また、市民アンケートの結果から、総合型地域スポーツクラブの認知度について、「知らない」割合が全体の約8割を占めていることから、活動内容などを周知することにより、認知度を高め、加入促進を図る必要があります。

※DX（デジタル・トランスフォーメーション）：デジタル技術を浸透させることで人々の生活をより良いものへと変革すること。

競技スポーツの振興や指導者の養成

スポーツをする目的は様々ありますが、競技技術が上達することは、スポーツの楽しさや達成感を得られるなど、スポーツを続ける大きな要因となります。

東京2020大会では、本市にゆかりのあるアスリートや、本市がホストタウンとなっているエストニア共和国選手の活躍が市民に夢や感動を与えてくれました。

これを契機とした、各種競技スポーツへの関心の高まりや市民のスポーツに対する参加意欲の向上が期待できます。

このことから、今後、全国大会や国際大会を目指す選手を育成していくためには、体育協会や各種競技団体などと連携した、競技スポーツの振興と指導者の発掘・養成が重要となっています。

国スポ・全障スポに向けた人材育成等

令和10年に長野県で開催予定の「国スポ」・「全国障害者スポーツ大会（以下「全障スポ」という。）」に向けて本市にゆかりのある選手が活躍できるよう、体育協会や各種競技団体などと連携し、次世代の選手を育成するとともに、市民の機運醸成を図る必要があります。

なお、本市で開催予定の競技（柔道、空手道、アーチェリー、軟式野球）については、県や体育協会、関係競技団体などと連携し、計画的な準備を進める必要があります。

スポーツ交流事業の推進

スポーツを通じて地域の人々が交流を深めていくことは、相互理解を深めるとともに、地域への誇りと愛着を深めることになり、地域の一体感の醸成や地域活力の向上につながります。

このため、国内外の友好都市等とのスポーツ大会・イベントなどの開催によるスポーツを通じた交流事業を継続するとともに、東京2020大会のホストタウン事業をしガシーとして継承するため、トップアスリートなどによる市民との交流機会の創出を図る必要があります。

スポーツを通じた地域の活性化

スポーツ合宿やスポーツ大会・イベントの開催などを誘致することは、交流人口の拡大を図り、地域における社会的な効果及び経済的な効果が期待されます。

このことから、社会体育施設や長野県立武道館などの「スポーツ資源」と本市の強みである年間日照時間の長さや交通網の優位性などの「地域の強み」を生かして、ウィズ/ポストコロナ時代を見据えたスポーツを通じた地域活性化を図る必要があります。

第二次佐久市総合計画で本市が目指す将来都市像である「快適健康都市 佐久」を実現するため、基本理念、目指す市民像、数値目標、基本目標を設定し、スポーツ振興施策を展開します。

1 基本理念

前計画から踏襲し、佐久市教育大綱における基本理念を設定します。

生涯にわたり主体的・創造的に学び、
生きる力を育む人づくり、まちづくり

2 目指す市民像

前計画から踏襲し、佐久市教育大綱における目指す市民像を設定します。

生涯にわたり学び、互いに支え合い、輝き続ける市民

3 数値目標

本計画の基本理念と目指す市民像の実現に向け、数値目標を設定し、スポーツ振興施策を展開します。

市民のスポーツ施策に関する満足度

基準値（令和3年度）
31.1%



目標値（令和8年度）
45.0%

このアンケート調査は、第二次佐久市総合計画に基づき実施している市の施策について、これまでの市民の「満足度」と将来の「重要度」を把握し、今後の施策に反映させるため、毎年実施しているものです。

この中で、「スポーツ施策」について、「満足」「やや満足」「どちらでもない」「やや不満」「不満」の5段階のうち「満足」「やや満足」と回答した割合を基準値（令和3年度）31.1%から目標値（令和8年度）45.0%とすることを目指します。

4 基本目標と成果指標

数値目標の達成のために4つの基本目標を設定し、分野ごとにスポーツ振興施策を展開します。

基本目標1 健康で活力あるスポーツライフの推進

性別や年齢、障がいの有無などを問わず、全ての市民が生涯にわたり心身ともに健康で暮らせるよう、いつまでもスポーツに親しむことができる「生涯スポーツ社会」の実現を目指します。

ライフステージやライフスタイルに応じた「子ども」「働き盛り、子育て世代」「高齢者」「障がい者」の4つのカテゴリーに分けて、それぞれに合わせたスポーツ振興施策を推進します。

成果指標	基準値（令和3年度）	目標値（令和8年度）
成人のスポーツ実施率 （週1日以上）	45.8%	70.0%

出典：「令和3年度 佐久市民スポーツに関するアンケート調査」による

成果指標	基準値（令和3年度）	目標値（令和8年度）
スポーツをすることが 好きな児童生徒の割合	●●●%	95.0%

出典：「令和3年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果（小学校5年生、中学校2年生対象）」

関連する
SDGsの目標



基本目標2 スポーツを安全で気軽に楽しめる施設環境の整備

本市の社会体育施設は、建設から年月が経過し老朽化が進んでいるものもことから、利用者が安全に利用できるよう、施設の適正な維持管理を図るとともに、統廃合も含めた計画的な整備を推進します。

また、指定管理者と一層連携を強化し、より効果的かつ効率的な運営を図るとともに、利用者の利便性やサービスの向上に努めます。

成果指標	基準値※	目標値（令和8年度）
体育施設の延べ利用者数	760,000人	830,000人

出典：「主要施策の成果報告書」

※基準値は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、平成27年度から令和元年度までの5か年平均値とする。

また、令和3年度の市営武道館閉鎖、令和4年度からの駒場公園の内、プール、テニスコート、弓道場の所管替えを考慮する。

関連する
SDGsの目標



基本目標3 スポーツを支える団体の支援と競技力の向上

市民の生涯スポーツを支えている体育協会、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブなどの関係団体が安定的かつ継続的な活動ができるよう支援に努めます。

令和10年に長野県で開催予定の国スポ・全障スポに向けて、各種競技団体と連携してジュニアから成人までの各世代の競技力の向上に努めるとともに、指導者の発掘・養成を図ります。

成果指標	基準値※	目標値（令和8年度）
全国大会等出場激励金 交付件数	42件	52件

出典：「主要施策の成果報告書」

※基準値は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、平成27年度から令和元年度までの5か年平均値とする。

関連する
SDGsの目標



基本目標4 スポーツを通じた交流の促進と地域の活性化

社会体育施設や長野県立武道館などの「スポーツ資源」と本市の強みである年間日照時間の長さや交通網の優位性などの「地域の強み」を生かし、スポーツ合宿やスポーツ大会・イベントを誘致することにより、交流人口の拡大と地域経済の活性化を図ります。

また、国内外の友好都市等とスポーツを通じ、人的、経済的、文化的な交流を図ることにより、友好関係を一層深めるよう努めます。

成果指標	基準値※	目標値（令和8年度）
スポーツ合宿受入れ人数	1,500人	2,500人

出典：スポーツ合宿の受入れ実績による

※基準値は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、平成27年度から令和元年度までの5か年平均値とする。

関連する
SDGsの目標

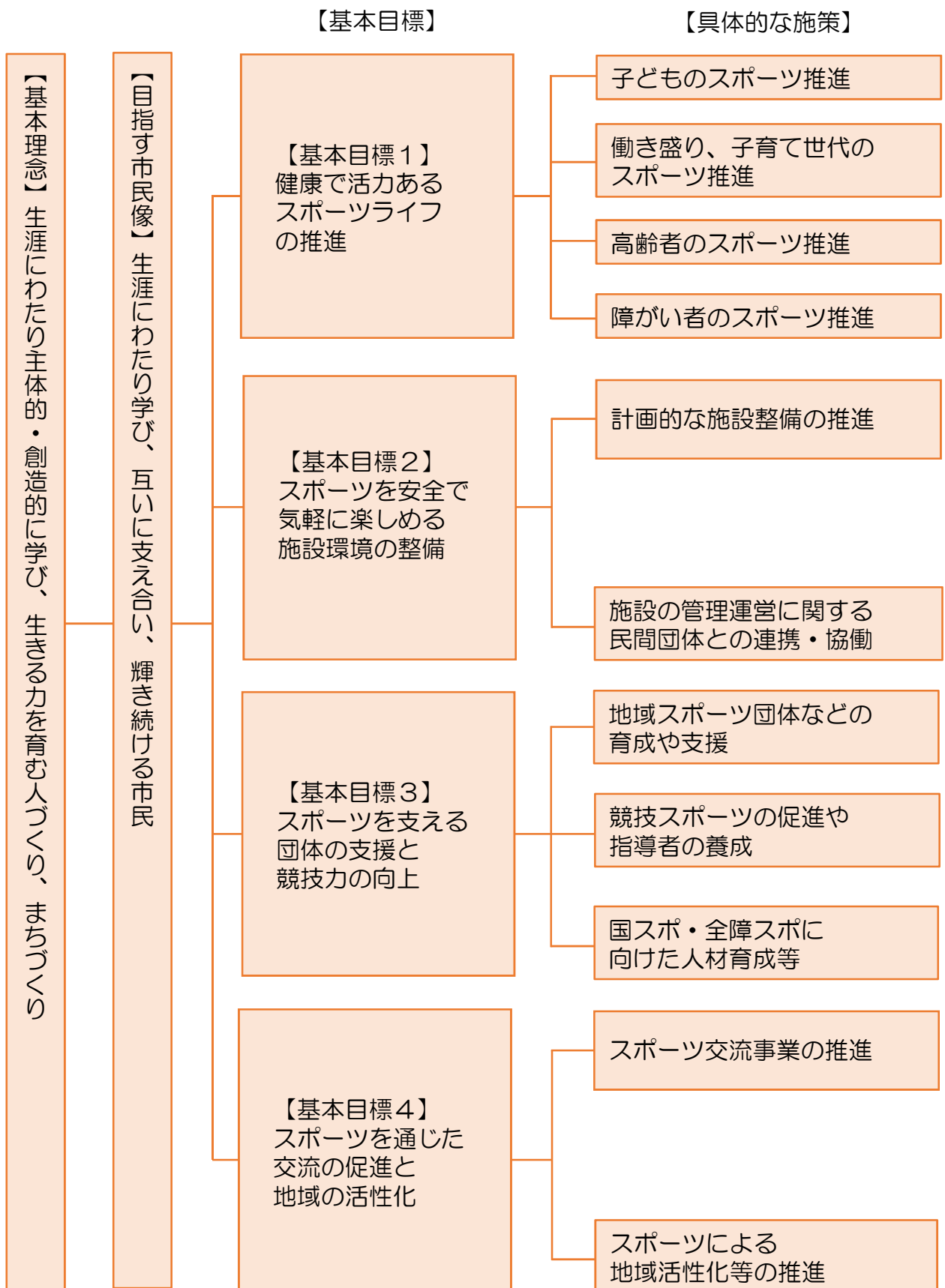


エストニア共和国オリンピック選手団事前合宿



萩谷楓選手 表敬訪問

5 計画の体系図



基本目標1 健康で活力あるスポーツライフの推進

1 子どものスポーツ推進

子どもが体を動かす喜びや楽しさを感じることは、その後の人間形成や運動機能の形成に影響するとともに、生涯にわたりスポーツに親しむきっかけとなります。

このため、子どもが成長する過程で、いろいろなスポーツを経験し、その中から興味・関心のある種目を見つけ、スポーツに親しむ習慣を身に付けることにより、豊かなスポーツライフの素地を育む必要があります。

(1) 子どもの運動能力の向上

- ◆生活様式の変化により外遊びや集団遊びをしない傾向にある幼児に対して、「運動能力の向上」と「心の発達」を図るため、保育園・幼稚園において、運動プログラムを実施します。
- ◆市内の医療機関と連携した「身体の基礎づくり」や「障害予防」など、子どもの基礎運動能力の向上につながる教室を開催します。

(2) 子どもの多様なスポーツ機会の充実

- ◆東京2020大会で注目を集めたスポーツクライミングなど、多様化する市民ニーズを捉え、多くの子どもが興味を持ち参加したくなるスポーツ教室やスポーツ大会の導入を検討します。
- ◆学校の体育授業や運動部活動だけではなく、家族や地域の人と一緒にスポーツを楽しむことができるよう、親子で参加できるスポーツ教室や総合型地域スポーツクラブと連携したスポーツ教室などを開催します。

(3) 子どもがスポーツに親しむ環境の充実

- ◆スポーツ少年団などが社会体育施設を使用する際の使用料減免や活動に対する助成金の交付など、身近でスポーツを楽しめる環境を整備します。
- ◆中学生の運動部活動において、学校部活動から地域部活動※への円滑な移行が図られるよう、スポーツ推進委員や各種競技団体などのスポーツに関する専門的知識を有する人材をはじめ、地域との連携強化を図ります。



abn 佐久市ジュニアゴルフ大会



佐久市小学生駅伝大会

※地域部活動：部活動を学校単位から地域単位で行うこと。

2 働き盛り、子育て世代のスポーツ推進

働き盛り、子育て世代はライフステージの変化などにより、自由な時間の減少や忙しさなどから運動不足に陥りやすい傾向にあります。

市民アンケート結果から20代から50代のスポーツ実施率は、他の世代と比べて低いことから、それぞれが体力や健康状態、ライフステージに応じたスポーツ習慣の定着を図る必要があります。

(1) ライフステージに応じたスポーツ機会の充実

- ◆市民がライフステージに応じてスポーツ活動に取り組むことができるよう、市民ニーズの把握に努め、既存のスポーツ教室やスポーツ大会などの見直し、充実を図ります。
- ◆体育協会やスポーツ推進委員などと連携し、日頃スポーツに接していない市民や初心者でも気軽に楽しめる軽スポーツ※ニュースポーツ※の普及促進を図ります。
- ◆親子で参加できるスポーツ教室やスポーツイベントを開催するなど、気軽に子どもと一緒にスポーツができる環境の充実を図ります。

(2) スポーツによる健康の保持増進

- ◆働き盛り世代に対して、朝や昼休みに体操・ストレッチをする運動機会の創出や階段の利用、徒歩・自転車通勤を推奨する「スポーツエールカンパニー※」などの普及を図ります。
- ◆子育て世代に対して、日常の生活の中で「すき間時間」や「ながら」でできるストレッチやトレーニングなどの普及啓発を図ります。



佐久市民ゴルフ大会



佐久市ママさんバレーボール大会

※軽スポーツ：運動量、ルール、精神的疲労度などが、他のスポーツに比べて軽度であるスポーツ

※ニュースポーツ：新しく考案されたり、古くから諸外国で伝統的に行われてきたスポーツを変形・改良した軽スポーツの総称

※スポーツエールカンパニー：スポーツ庁で推奨している従業員の健康増進のため、スポーツの実施に向けて積極的な取組を行っている企業を認定する制度

3 高齢者のスポーツ推進

高齢者にとってスポーツは、体力や運動能力の維持向上といった身体的な効果のほか、仲間づくりや生きがい、ストレス解消といった精神的な要素での効果が期待されます。

今後、本市においても超高齢社会が進んでいく中で、高齢者が心身ともに充実し健康で生き生きした生活を送ることは、「健康寿命」の延伸につながるため、高齢者のスポーツ活動を推進します。

(1) スポーツを通じた健康づくり

- ◆地域で活動するスポーツ推進委員や保健指導員をはじめ、保健医療関係者や健康運動指導士※などと連携し、ウォーキング教室やヨガ教室などの健康の保持増進につながるスポーツ教室を開催します。
- ◆高齢になってからも活力ある豊かな生活が送れるよう、本市が独自に作成した「佐久市健康長寿体操」を普及し、運動習慣の定着を図ります。
- ◆「ぴんころ運動推進事業」の一つである「ピン・ピン講座」をはじめ、ウォーキングや室内運動といった普段体を動かさない方にも無理なく楽しめる機会の充実を図ります。
- ◆自分自身の体力・運動能力の現状を把握できるよう、体力テストなどの実施に努めます。

(2) 生涯スポーツの推進

- ◆本市の豊かな自然環境を生かしたマレットゴルフ場を活用し、身近で気軽に楽しめるマレットゴルフの普及を図ります。
- ◆身近な地域で楽しく体を動かせるよう、室内でも気軽にできるヨガやニュースポーツなどの普及を図ります。
- ◆生涯にわたって健康で生きがいをもって生活を送れるよう、ゲートボールやソフトボール、バレーボールなどの生涯スポーツの普及を図ります。



ポールウォーキング



佐久市寿（ことぶき）ゲートボール大会

※健康運動指導士：保健医療関係者と連携しつつ安全で効果的な運動を実施するための運動プログラムの作成及び実践指導計画の調整などの役割を担う者

4 障がい者のスポーツ推進

障がい者がスポーツ活動に参加することは、心身の健康の維持に寄与するとともに、外出機会の増加や交友関係が広がることによる社会参加の促進が期待されます。

このことから、障がい者が能力、個性、意欲に応じて、自主的かつ積極的にスポーツに参加できる機会の充実を図ります。

また、東京2020大会を契機とした障がい者スポーツへの関心をさらに高めるため、障がい者スポーツを体験する機会などの充実を図ります。

(1) 障がい者がスポーツに親しむ機会の充実

- ◆「サンスポート佐久※」や障がい者団体などと連携し、障がい者が気軽に参加できるスポーツ教室やスポーツイベントを開催し、スポーツを通じた障がい者の社会参加を促進します。
- ◆「長野県障がい者スポーツ大会」の周知や参加への支援のほか、全国大会や国際大会へ出場する選手に対して激励金を交付するなど、競技スポーツを推進します。
- ◆障がい者スポーツを促進するために、社会体育施設使用料の減免を継続するとともに、施設の改修時などに併せてバリアフリー化を図ります。

(2) 障がい者スポーツの普及促進

- ◆ボッチャの用具貸出しや車いすバスケットボールなどのパラスポーツ体験イベントを通して、障がい者と健常者の相互理解を深めるとともに、障がい者スポーツの普及促進を図ります。
- ◆障がい者スポーツの普及のため、サンスポート佐久などと連携し、障がい者スポーツを支える人材の養成・確保に努めます。



あすチャレ！スクール



あすチャレ！運動会

※サンスポート佐久：長野県障がい者福祉センター佐久事務所の愛称で、東信地域の障がい者のレクリエーション・スポーツ指導、支援を行っている団体

基本目標２ スポーツを安全で気軽に楽しめる施設環境の整備

1 計画的な施設整備の推進

本市の多くの社会体育施設は、昭和50年代に建設されており、老朽化が進んでいることから、公共施設等の総合的かつ計画的な管理に関する基本的な方針である「佐久市公共施設等総合管理計画」などにに基づき、利用者が安心、安全、快適に利用できる施設の改修や整備を推進します。

(1) 施設の適正な整備

- ◆老朽化した社会体育施設については、「佐久市公共施設等総合管理計画」や施設ごとの具体的な対応方針を定める「個別施設計画」を踏まえ、施設の統廃合も含めた、計画的な改修や整備を図ります。
また、市民や各種競技団体などのニーズの把握に努めるとともに、将来人口推計を勘案し、今後の施設整備の方向性を検討します。
- ◆施設の維持管理や整備に要する経費に対応するため、ネーミングライツの導入や広告スペースの販売など新たな財源確保を検討します。
- ◆年齢や性別、障がいの有無などを問わず、誰もが安心・安全に利用することができるよう、多目的トイレやスロープの設置など「ユニバーサルデザイン」に配慮した施設の改修や整備に努めます。
- ◆臼田総合運動公園の大規模な改修・整備を計画的に進め、スポーツを通じ、ふれあいや交流を深める場とするとともに、健康を増進させる場としての利用促進を図ります。

(2) 身近な施設・場所でのスポーツの充実

- ◆学校教育に支障のない範囲で、市内公立小中学校の体育施設を開放し、スポーツ活動の場として有効活用することにより、身近でスポーツができる環境づくりに努めます。
- ◆「ウォーカブル推進都市[※]」として、歩きたくなる歩行空間や公園等を活用し、地域と連携しながら、ウォーキングや健康体操など身近な場所で日常的にスポーツに親しむことができる環境づくりを推進します。
- ◆市内には社会体育施設のほか、民間で運営しているスポーツジムやゴルフ場などのスポーツ施設が充実していることから、市で開催するスポーツ教室や大会などでの利用を通じて、市民のスポーツ機会の充実を図ります。

(3) 安心・安全に利用できる環境づくり

- ◆佐久市総合体育館トレーニング室や佐久総合運動公園陸上競技場の設備・器具などの定期的な点検及び適切な管理を徹底し、利用者が安心・安全に利用できる環境づくりに努めます。

※ウォーカブル推進都市：「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の形成を目指し、国内外の先進事例などの情報共有や、政策づくりに向けた国と地方プラネットに参加し、ウォーカブルなまちづくりを共に推進する都市として、国土交通省が募集しているもの。本市は、令和元年8月にこの趣旨に賛同し、取組を進めています。

2 施設の管理運営に関する民間団体との連携・協働

市民誰もが気軽に利用しやすい施設の環境づくりと施設の利用促進を図るため、市民や各種競技団体などのニーズの把握に努めるとともに、指定管理者と連携し、効果的かつ効率的な施設の管理運営に努めます。

(1) 効率的かつ効果的な施設の管理運営

- ◆社会体育施設は、今後も指定管理者と一層の連携を図ることにより、利用者の利便性やサービスの向上のほか、低コスト化や利用促進を図ります。
- ◆社会体育施設の使用料は、電子決済システムを導入することにより、さらなる利用者の利便性の向上を図ります。
- ◆社会体育施設の予約方法などは、利用者がさらに利用しやすい環境にするため、「佐久市公共施設案内・予約システム」の機能の充実や改修などによる見直しを検討します。
- ◆指定管理者のノウハウを生かした魅力ある自主事業の推進により、さらなる施設の利用促進を図ります。

(2) 施設情報の発信

- ◆市や指定管理者のホームページなどで体育施設の施設案内や予約状況などを発信することにより、市民のほか、市外からの利用者の拡大を図ります。

(3) 地球温暖化対策を推進した管理運営

- ◆「佐久市環境基本計画」や「佐久市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」等に基づき、施設の改修に併せた照明器具のLED化に努めるほか、温室効果ガスの総排出量削減に繋がる効率的な設備機器の導入を検討します。さらに、冷暖房器具の適切な温度調整など、効率的な管理・運営に努めます。



佐久総合運動公園陸上競技場、補助競技場



佐久市総合体育館 トレーニング室

基本目標3 スポーツを支える団体の支援と競技力の向上

1 地域スポーツ団体などの育成や支援

地域におけるスポーツ活動は、健康の保持増進のほか、地域コミュニティの醸成にも寄与することから、市民が生涯にわたって身近な地域でスポーツ活動に取り組めるよう、地域スポーツを支える関係団体の支援に努めます。

(1) スポーツによる地域コミュニティ活動の促進

- ◆スポーツを通じた地域住民の交流を深めるため、体育協会などと連携して、地区単位のスポーツ大会などの開催を促進し、地域スポーツ団体を中心とした地域コミュニティの醸成を図ります。
- ◆地域の公民館で実施しているヨガや体操講座などの身近な場所でのスポーツ活動を推進します。

(2) スポーツを通じた地域活動の担い手への支援

- ◆総合型地域スポーツクラブの活動内容等を周知することにより、認知度を高め、会員の加入や新たなクラブ設立の促進を図ります。
- ◆体育協会や総合型地域スポーツクラブにスポーツ教室などを委託することにより、活発な活動を促進するとともに、安定的かつ継続的な運営のための支援を図ります。
- ◆スポーツ団体の指導者などに対して、スポーツ事故やスポーツ障害などの研修会を開催するとともに、関係機関が開催する研修会への参加を促進します。
- ◆スポーツ推進委員の人材の確保に努めるとともに、研修会などへの参加を通じてスポーツ推進委員の相互交流やスキルアップを促進します。
- ◆青少年健全育成を目的に活動しているスポーツ少年団の募集情報を広報誌やホームページにおいて、広く情報発信します。



NPO法人もちづき総合型クラブ



岸野スポーツクラブ

2 競技スポーツの振興や指導者の養成

すべての世代において競技スポーツを振興するため、体育協会や各種競技団体などと連携して、競技スポーツに触れる機会を創出することにより競技人口の拡大を図るとともに、指導者の養成、指導力の向上を図ります。

(1) 競技スポーツに触れる機会の充実

- ◆トップアスリートのプレーを「みる」機会を充実させるため、プロスポーツの試合やスポーツ合宿・キャンプなどを積極的に誘致します。
- ◆本市がホームタウンとなっている「AC長野パルセイロ」と連携し、トップチーム、アスリートの試合観戦や公開練習を通して、競技スポーツの振興を図ります。
- ◆本市にゆかりのあるアスリートによるイベントを開催することにより、郷土愛の醸成や競技スポーツへの参加意識の高揚を図ります。

(2) 指導者の発掘・養成

- ◆指導者の高齢化や後継者が減少していることから、体育協会や各種競技団体と連携し、次世代の指導者の発掘・養成を支援するとともに、安定的な指導体制づくりに努めます。
- ◆指導者や団体に対して、体罰やハラスメント等に関する研修会を開催し、コンプライアンス意識の向上を図ることにより、指導者の質の向上に努めます。
- ◆市内の医療機関などと連携して、指導者などに対する研修会を開催し、スポーツ障害や効果的なトレーニング方法に関する知識の普及啓発を図ります。

(3) 選手・団体への支援や市民周知

- ◆全国大会や国際大会に出場する選手や団体に対して、激励金を交付することにより、市民のスポーツ活動を促進し、地域スポーツの振興を図ります。
- ◆全国大会や国際大会に出場し、市民に夢や希望を与えてくれる選手や団体を市ホームページ等で広く市民に周知することにより、スポーツ活動への参加意欲の向上を図ります。



佐久市ハーフマラソン大会



元日本代表によるサッカー教室

3 国スポ・全障スポに向けた人材育成等

令和10年に長野県で開催が予定されている国スポと全障スポにおいて、本市にゆかりのある選手が活躍できるよう、選手の発掘、育成、強化をするとともに、本市が会場となる競技の開催に向けた計画的な準備を進めます。

(1) アスリートの発掘、育成、強化

- ◆体育協会や各種競技団体と連携して、将来有望なジュニアアスリートの発掘・育成をするとともに、成人アスリートの強化を図ることにより、各世代の競技力の向上に努めます。
- ◆トップアスリートによるスポーツ教室や講演会などを開催することにより、指導者の指導力向上やアスリートの技術力向上を図ります。
- ◆体育協会や各種競技団体と連携して、スポーツ大会などを開催し、練習の成果を発揮する機会を充実させることにより、競技力の向上を図ります。

(2) 国スポ・全障スポの開催に向けた体制づくり

- ◆国スポ・全障スポの開催にあたっては、積極的な情報発信を行い、市民が認知し一緒に盛り上げられるよう機運の醸成を図ります。
- ◆本市では、国スポの会場として柔道、空手道、アーチェリー、軟式野球が、また、全障スポの会場としてアーチェリーが予定されていることから、県・体育協会・各種競技団体などと連携し、計画的な準備及び運営体制の構築を図ります。



基本目標4 スポーツを通じた交流の促進と地域の活性化

1 スポーツ交流事業の推進

スポーツには、性別や世代、地域などを超えて、人と人、地域と地域の絆を深める力があることから、国内外を問わずスポーツを通じた人的、経済的、文化的な交流機会の創出や友好関係の深化を図ります。

(1) スポーツを通じた交流の推進

- ◆本市とゆかりのある都市（姉妹都市、友好都市、交流都市、ゆかりのまち）と連携し、スポーツ交流会の開催などを通じて、人と人、地域と地域の相互交流を推進します。
- ◆東京2020大会のホストタウン交流事業をレガシーとして継承するため、今後もエストニア共和国とのスポーツや人的、経済的、文化的な交流を図ることにより、友好関係の深化を図ります。
- ◆本市にゆかりのあるオリンピックなどを招き、スポーツ教室の開催や講演会などを通して、市民との交流機会の創出を図ります。
- ◆本市がホームタウンである「AC長野パルセイロ」や民間団体等と連携し、スポーツイベントや市民との交流機会の創出を図ります。

2 スポーツによる地域活性化等の推進

本市の「スポーツ資源」と「地域の強み」を生かすとともに、各種競技団体や民間企業と連携したスポーツ合宿やスポーツ大会・イベントの誘致することにより、交流人口の拡大と地域活性化を図ります。

(1) スポーツを通じた地域活性化

- ◆第2種公認競技場*である佐久総合運動公園陸上競技場や長野県立武道館などの「スポーツ資源」を生かし、県域を越える大規模な大会などを積極的に誘致し、市外からの誘客を図ります。
- ◆ハーフマラソン大会など市外からの参加が見込めるスポーツ大会の充実を図るとともに、魅力的なスポーツ大会・イベントの企画立案を検討し、さらなる市外からの参加の促進を図ります。
- ◆本市を含む東信地域の関係自治体と連携して、広域的なスポーツ振興を図ることにより、誘客や地域活性化に取り組みます。
- ◆本市の「地域の強み」を生かし、市内のホテル旅館業組合などと連携した積極的なスポーツ合宿・キャンプの誘致を推進します。
- ◆長野県スポーツコミッションや佐久市観光協会などと連携して、スポーツを観光資源とするスポーツツーリズム*を推進し、地域の活性化を図ります。

※第2種公認競技場：公認競技会を開催できる施設であることを日本陸上競技連盟が認定した施設のことです。設備などにより第1種から第4種までに分けられ、第2種では日本陸上競技連盟の加盟団体などが主催する選手権大会及び主要な競技会並びに日本陸上競技連盟が承認し主催する競技会が開催できます。

※スポーツツーリズム：プロスポーツなどの観戦やマラソンなどのイベントへの参加にあわせ、開催地とその周辺を観光する旅行スタイルであり、交流人口の拡大と地域経済への波及効果などを目指す取組のことです。

1 計画の推進体制

本計画の実現に向けては、市民、関係機関、関係団体、行政が連携、協働しながら進めていくことが重要であることから、本市ホームページや広報誌などにおいて、本計画の周知を図るとともに、それぞれの役割などを認識し、連携、協働をより一層強め、計画の実現に向けて取り組みます。

また、国・県のスポーツ施策や第二次佐久市総合計画及び関連計画との整合を図りながら、本計画に定める施策の実施に努めます。

2 計画の進行管理

本計画の進行管理に当たっては、計画（Plan）、実行（Do）、評価（Check）、改善（Action）の4段階を繰り返すことによる「PDCAサイクル」の考え方を基本とし、事業の継続的な改善を図ります。

なお、本計画の進捗状況の検証、評価に当たっては、佐久市スポーツ推進審議会において、市民アンケートや各種調査のほか、施策の実施状況や数値目標などを点検、評価し、計画の適切な進行管理に努めます。

